

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌、扁平上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Radiotherapy for locally advanced basal cell and squamous cell carcinomas of the skin</b>	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	B C C C Q 1 1 - 1 4	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	15380573	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	60	
	号	2	
	ページ	406-11	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2004 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Kwan W	British Columbia Cancer Agency
	その他著者 1	Wilson D	同上
	その他著者 2	Moravan V	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の8項目	目的	局所進行期の基底細胞癌と扁平上皮癌の放射線治療成績を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	British Columbia Cancer Agency	
	対象者	基底細胞癌(61例) T1:0%、T2:13%、T3:61%、T4:23% 扁平上皮癌(121例) T1:6%、T2:19%、T3:41%、T4:22% リンパ節転移:基底細胞癌 0%、扁平上皮癌 31% 原発部位:基底細胞癌(頭頸部 100%) 扁平上皮癌(頭頸部 84%、体幹部 9%、四肢 7%) 治療:初回治療 45~49%、再発時としての治療 51~55%	
	対象者情報(国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報(性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報(年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (14)	
	介入(要因曝露)	線質:コバルト、4MV以上のX線、電子線を症例毎に選択 線量:35Gy/5回、40-45Gy/10回、50-55Gy/15-20回、60Gy/25回、 60-70Gy/30-35回	
	エンドポイント(アウトカム)	エンドポイント	区分
		1 生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		2 局所制御率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		3 再発形式	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		4	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		5	1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	7	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	8	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	9	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
	10	1.主要 2.副次 3.その他 ( )	
主な結果	4年生存率:基底細胞癌 100%、扁平上皮癌 60% 4年局所制御率:基底細胞癌 86%、扁平上皮癌 58% 再発期間の中央値:40.5か月(基底細胞癌)、5か月(扁平上皮癌) 扁平上皮癌で死亡した37例中、30例が局所、7例が遠隔転移が原因 予防的リンパ節領域への照射は局所領域リンパ節の制御に寄与しない		

	結論	<p>基底細胞癌は局所進行期でも放射線治療が有効。</p> <p>一方、扁平上皮癌では放射線治療後早期に再発する症例もあり不幸な転帰をとる症例がある。局所再発が死因の最多であった。</p>
	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	鹿間 直人
	レビュワーコメント	<p>進行期のみを対象とした遡及的研究</p> <p>レベル I V</p>